

母なるものを巡って

延喜式内社・日本一社 伊射奈美神社

世界各国の神話には必ず母神が登場しますが、私たち日本人にとっては、日本列島(大八洲)と八百万の神々を生み出したイザナミ(伊耶那美)が、母なる神として古くから伝えられてきました。ところが不思議なことに、イザナミは大いなる母(グレートマザー)でありながら、全国的に見てもほとんど祀られていない神様なのです。今回は、日本で唯一、イザナミを祀る延喜式内社である伊射奈美神社(徳島県)に焦点を当てながら、私たちの母なる存在の面影を巡ります。

大いなる母神としてのイザナミ

イザナミは八百万の神々の母神であり、日本神話のなかで非常に重要な役割を担っています。あまり神社に祀られているところを見たことがありません。非常に不思議なのですが、なぜでしょうか。

オキタ／イザナミは日本神話においては「国生み」を担った、あらゆる神々にとっての母であり、その存在が私たち日本人にとって極めて重要であることは言うまでもありません。

ところが、全国で三千百三十二座ある延喜式内社のうち、イザナミを単一で祀っているのは徳島にある伊射奈美神社一社のみなのです。一方、夫であるイザナギを祀る神社は、伊弉諾神宮はじめ全国で八社あるわけですから、これは不可解なことですね。

非常に重要な神であるにも関わらず、イザナミ

があまり祀られることがなかったのは何故なのか。はっきりとした理由は分かっていません。祟り神になってしまったから……という説もありますが、たとえば菅原道真のように怨念を鎮めるために祀られた強烈な祟り神でありながら、後に全国各地で学問の神様として祀られるようになった例もあるわけですから、それだけが理由ではないはずです。

むしろ、神々の「負の側面」のみを見ることは本質的でないと私は考えます。善悪は個性と表裏一体。「負の側面」を解釈し直せば、その神の特性であり利益でもあるわけですから。

日本人としてイザナミをどのように感じればよいでしょうか。

オキタ／性格の面で見れば、イザナミは人間における女性の特性と課題点をいずれも兼ね備えているように思います。そして、重要なことは日本人

として最初に「離婚」を経験した女性であるということ。夫との別れ際がよくなかった。一方、

そのような負のストーリーがありつつも、本質的には日本という国にとって重要な神となる優秀な子供たちをたくさん生んだ母神であることを忘れてはなりません。イザナミは八百万の神々のなかでも格別な存在なのです。

日本の神々は「偉大な先輩」である

日本の母神と西欧の母神との違いは何でしょうか。

オキタ／日本における母神は、聖母マリアのような西欧の母神とは性格がだいぶ異なりますね。大きな違いとしては、聖母マリアが処女懐胎を体験したのに対して、『古事記』では性を肯定しているのです。人間らしいお父さんお母さんとして夫婦の営みを行い、人間らしい神々を生んだイザナギ・イザナミ。すなわち、私たちの神々は大いなる存在でありながら、私たちよりも先に人生を体験した「先輩」でもあると言えるかもしれません。

最初、延喜式内社の調査でこの地に入った際に、神社と古墳がワンセットになっているスポットが多いという事実が直感しました。伝説上の神々なのに墓がある(？)そんなバカな……と受け入れるのに時間がかかりましたが、考えてみれば私たち日本人の先祖をたどっていくと必ず八百万のうちのいずれかの神に到達するため、八百万の神々は、実は過去に本当に生きていた人物だったのかもしれない。日本の神々は私たちと少しも変わらない。偉大な先輩の働きを尊敬する姿勢から、さまざまな職業への尊敬、人間社会のさまざまな営

みへの尊敬が育まれるはずなのです。

産土神は基本的に、一族の祖霊を祀っています。養蚕業が盛んな村では、その村に養蚕を伝えた人が神になるし、製鉄業を生業とする集団においては技術を持ち込んだ外部者が神になるかもしれない。日本の神々には、火の神、水の神、土の神、という属性がありますが、その属性はおそらく「役職」を表しているのではないかと私は考えています。火の神はたたら場の指導者だったかもしれないし、水の神は治水事業を主導していた人かもしれない。日本の神々は、私たちの職業を先んじて経験した「先輩」でもあるのでしよう。そう考えると、神社と古墳がワンセットになったのも頷けます。

日本の神々は職場の上司、あるいは家族や親戚のようなものなのです。

オキタ／私たちに非常に似た、親しみを感じる身近な存在であるということでしょう。たとえば、本田技研を立ち上げた故・本田宗一郎は、学歴がなくとも事業を成功に導いた偉大な「先輩」であり、「HONDA」で働くスタッフにとっては「創造神」であるとも言えます。



「立天浮橋図」尾形月耕筆
イザナギ・イザナミの二神を描いた画。



【神社の基本情報】
延喜式神名帳 阿波国美馬郡鎮座
式内社 伊射奈美神社 (いざなみじんじや)
所在地: 徳島県美馬市美馬町中鳥 338
御祭神: 伊耶那美大神
全国で3,132座ある延喜式内社の中でも特に重要な“元社”。その“元社”の中でも、とりわけ重要な神社である伊射奈美神社。

オキタリュウイチ クリエイティブディレクター
昭和51(1976)年、徳島県生まれ。早稲田大学中退。行動経済学に基づく経済心理学を独自の手法でマーケティングに応用し、数々の事業再生に従事。京都の老舗米屋をネットで17億の売上にするなど、驚異的な成果を生み出す。同時に社会活動家として、自殺者撲滅や障害者の起業支援を日本財団と共催するなど、社会的課題の解決にも取り組む。



都会暮らしの人々を貸し切りバスに乗せ、徳島の式内社に案内するオキタ。伊射奈美神社、波岡移麻比禰神社、弥都波能売神社などをまわる。



また、創業時に宗一郎とともに働いていた人々は、現代人に比べると学歴も低かったし、失敗だらけだった。

『古事記』では、そんな神々たちの「大いなる失敗」が神話エピソードとして、めくるめく展開しているのです。日本の神々は決してパーフェクトではないことを意識することは大切なことです。西欧の絶対神のように、「神」絶対であり完璧なものとして人間と分け隔てられるものではないのです。あなたが引き起こした仕事上の「大失敗」も、遠い未来には日本神話のひとつになっているかもしれませんね（笑）。

畏れおののく必要はないが、親しみと敬意をもって挨拶をするべき存在。偉大な先輩、あるいは大いなる親戚として敬うべき存在が日本の神様ではないでしょうか。だから私も、過去の日本人と同じように、イザナミに対しては八百万の神々を生んだ功績に敬意を払い、偉大な先輩、グレートマザーとして尊敬しているのです。

母神のふるさと美馬にあり

——延喜式内社としてイザナミを祀る神社が、国内で唯一徳島にあるのは何故なのでしょう。

オキタ／延喜式内社の伊射奈美神社は徳島県の美馬町という場所にあります。徳島藩によってまとめられた史書である『阿府志』、あるいは江戸時代に光圀公がダイレクションし、二百年後の明治時代に完成した史書『大日本史』に、「式内伊邪那美神社は高越山絶上」とあり、この史実を手掛かりにするならば、おそらくは高越山から現在地に移遷してきたと考えられます。

（蜂須賀家）に「阿淡二州の天子の御陵を調査せよ」という密命があったようで、その時期に実際に徳島の山々や淡路島周辺を発掘調査していた事実が記録されています。徳川家は高越山に関わる何かしらの重要な秘密を握っていたのかもしれませんが。

高越山はもとも「神つ山」という明記が変形したとも言われ、やはりそこには何かがありそうです。高越山の山頂にイザナミを祀る神社がもともとあったのならば、高越山自体もイザナミにまつわる重要な秘密をはらんでいたはずであり、古代のミステリーとして非常に興味深いテーマです。

——なぜいまは高越山ではなく吉野川沿いの平地に神社があるのでしょうか。

オキタ／これはあくまでも仮説ですが、古代の天子を生んだ母神であるイザナミの古墳が高越山の山頂にあるという事実が明るみになった際に、それを喜ばしく思わなかった勢力があったことを暗示する古文書が発見されており、伊射奈美神社の移遷と何かしらの関係があるのではないかと見えています。実際に徳島には、その大いなる権力のもと、本来のかたちを変形させられたり、まったく関係のない名称に名を変えさせられている神社や地名が多いのです。

そのために、徳島にある日本の成り立ちに関わる重要な神社が、いま消滅の危機に瀕しています。先ほどふれたハニヤマヒメを祀る波爾移麻比禰神社などは、式内社でありながら社殿のすべてがトタンで出来ているという見るに堪えない状況です。本来は式内社であったのだから、立派な社領



また、注視するべき点として、この近辺にイザナミが「国生み」の後に生んだ神々を祀る神社が数多く存在しています。たとえば、伊射奈美神社からほど遠くない脇町という場所に、波爾移麻比禰神社や弥都波能売神社といった延喜式内社があります。これらの神社に祀られる神はそれぞれ、土の神・ハニヤマヒメ、水の神・ミツハノメという、『古事記』の物語のなかでイザナミが生んだ神々なのです。そのような事実から推察して、この美馬町の伊射奈美神社がイザナミを祀る神社の「元社」であろうと私は考えています。

——イザナミを祀る神社が本来あったとされる、高越山はどんな山なのでしょうか。

オキタ／今となっては手がかりが乏しく仮説的なことしか言えませんが、高越山そのものが巨大な御陵であるという説があります。山そのものが古墳であるということです。江戸の元禄年間から幕末にかけて何度かにわたり、徳川幕府から徳島藩

や社殿を有していたはずなのですが、いまやその面影はまったくなく、日本で最初に出現した「土」の神である、極めて重要なハニヤマヒメを祀る日本で最古の式内社がこんな状況なのです（！）。日本を真の意味で元気にするならば、このような場所を放置したまま表面的な策を講じて、豆腐の上の高いやぐらを建てるようなものではないでしょうか。

母なる神をプロデュースする

——社殿の様子や参拝客など、伊射奈美神社の現状はいかがですか。

オキタ／私たち日本人にとって極めて重要な神社でありながら、訪れる人も少なく、閑古鳥が鳴いています。大いなる「国生み」の神であるにも関わらず、一般的にはこの神社の存在がほとんど知られていない現状は非常に残念なことです。なぜこのような状況が起こっているのか、いろいろと考えられると思いますが、過去に伊射奈美神社をプロデュースする人が居なかったのも主因のひとつでしょう。

多くの人々に認知されている神社が、必ずしも歴史的に見て重要なわけではありません。たくさんの方が訪れる神社の中には、突発的なご利益信仰を誰かが言い出したことによって、後天的に有名になった場所も多いのが実情。認知を広める上で、歴史的に重要か否かは残念ながら関係ないのです。アピールポイントをどう作るか、ご利益をいかに演出するかが肝となります。

私たち日本人とあまり関係のない神社であっても、プロデュースが上手くいっているために多く

質問攻めにあうオキタ。なぜ狛犬が4つも居るのか？ 都心で暮らす人々にとって、見るものすべてが驚きの連続である。



屋根には菊の御紋。



伊射奈美神社の境内。今では想像するしかないが、古くは式内社としての威厳を備えた神社であったに違いない。



延喜式内社でありながら、社殿が全面トタン製の波爾移麻比禰神社。

社殿の脇に水路が流れる延喜式内社、弥都波能売神社。

の参拝客で賑わっている場所もあるのですから、伊射奈美神社のように、多くの神社のルートにあたる本当に重要な「元社」ならば、より重点的に盛り上げなくてはならない。このままでは、日本人にとって本当に重要な神社が人々から忘れ去られ、日本人のルーツが永久に失われてしまう（！）。私はそんな危機感から、伊射奈美神社で講演会を行うなど、新たな活動もはじめています。

——伊射奈美神社をブランディングする場合、どのような手法が考えられますか。

オキタ／まず、交通的に不利な場所にあることが欠点であると先ほど言いましたが、距離が遠いという事実を逆に利点にした成功事例も存在します。その代表的な例が高野山ですね。高野山は平安時代に山を切り開いて造営されましたが、その土地にもともと存在していた古い神々や熊野古道など周辺の印象をうまく織り交ぜる演出を実現させました。日常とはかけ離れた密教の「別世界」としてブランディングすることに成功したのです。伊射奈美神社も市の中心部から遠い場所にあります。伊射奈美神社も市の中心部から遠い場所にあるかもしれませんが、それを逆に利点にすることも出来るかもしれません。

他の手法としては例えば、その街全体を印象付けるような「スローガン」を考えると「アップローチ」もあります。たとえば、愛媛県の双海町（ふたみち）はもともとさほど観光資源に恵まれていない場所でしたが、「沈む夕日が立ちどまる町」というスローガンを採用してから、年間五十五万人の人が夕日を見に来るようになりました。夕日の時刻表を公開したり、焼けた火鉢に水を注ぐ際の「シュー」という音を夕日が沈む擬音としてラジオで流すな



吉野川沿いのロードサイドに社殿を構える伊射奈美神社。



社殿に飾られた亀の甲羅。その昔、亀トで使用したもののか。太古の神々は、誓（うけい）で日々の吉凶を占っていた。



歴史の重みを感じさせる扁額。

【式内社とは何か？】

式内社（延喜式内社）とは、延長5年（927年）にまとめられた『延喜式』の巻九・十に収められた「延喜式神名帳」に記載されている神社のことを指します。これらは、律令制のもと祭祀を司る神祇官から幣帛（神前への捧げ物）を受けとっていた神社であり、それゆえに非常に格式の高い神社であったと考えられます。式内社は、全国で2,861社3,132座あったと記録されます。古社の格式を知る上で、この「延喜式神名帳」の記述はとても重要な手掛かりになります。



簡素だが風情を感じさせる本殿（創建時期は不詳）。

ど、ユニークな演出も功を奏しました。伊射奈美神社についていえば、美馬という周辺地域の印象が薄いの大きな不足ではないかと考えられますが、印象が薄いからこそ新たなイメージを演出するだけの余地があるとも考えられるのです。

一方、母なる神、イザナミは自ら産み出した子供たち全員を偉大な神にしたという、すさまじい功績を残した存在でもあります。その側面から見れば、イザナミは「すべからく子供を出世させる」ご利益がある神とも考えられ、その点をアピールポイントにすることも出来ると思うのです。ブランディングが上手くいけば、全国の受験生を抱えた親、就活中の子供を抱えた親たちがこの美馬の地を訪れるかもしれませんね。「大いなる母」という愛称は、如何様にも言い換えることができ、イザナミの魅力を伝えるための未知のフレーズはまだまだ無数に存在するはずなのです。



伊射奈美神社「倭古事記研究会主催・国生み祭」でのオキタによる講義の様子。“国生み”や“国譲り”の意味とともに、神社を中心とするシステムによる、日本的な問題解決手法を語った。

インタビューより編集構成／石黒壮明